

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	神経変性疾患における細胞内分解系の病態解析		
2. 対象患者	死体解剖保存法に基づき剖検が行われた症例		
3. 対象となる期間	2020年 7月 1日 ~ 2022年 3月 31日		
4. 実施診療科等	脳神経内科、病理部など		
5. 研究責任者	氏名	若林孝一	所属 医学研究科脳神経病理学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	本研究により、標的タンパク質の代謝・分解の低下が起こっていた場合には、調節している分子群を逆に活性化することで治療につながる可能性が生まれます。また、変動していた分子を利用して、病気の新たな検査法や診断技術の開発に応用が可能です。		
8. 研究の目的	神経変性疾患では異常タンパク質の脳内蓄積が起こっています。その原因の一つとして標的タンパク質の代謝・分解の低下が起こり、蓄積すると考えられています。本課題では細胞内分解系において代謝・分解を調節している分子群の発現量、活性および局在を明らかにすることが目的です。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	用いる材料は剖検例のホルマリン固定組織および凍結組織です。病態関連分子に対する組織上での「発現場所」を同定したり、「その量」を比較することで検査します。より詳細には以下の3つの項目を検査します。①ホルマリン固定パラフィン包埋切片を用い、標的タンパク質(synuclein, tau, amyloid-beta, TDP-43)に加え、オートファジー(NUB1, LC3, AMBRA1)や細胞小胞膜(VAMPs, Rabs, FABPs)の関連分子に対する免疫染色を行います。②凍結組織からタンパク質を抽出して、上述した分子群の量を解析します。③酵素活性を測定するために、脂質結合型LC3量を解析し比較検討します。		
10. 個人情報の保護	データは匿名化(氏名等を削除し、この研究のための識別符号を付与)して、研究責任者の講座のコンピューター(インターネット回線接続なし)に保存しています。また、紙媒体等の情報は当講座が保管をしています。データは匿名化してあるため、個人情報が漏洩する可能性はなく、保存している媒体はオンラインにつながっておらず、不正にコンピューターに侵入される可能性はありません。病理所見を臨床所見と比較、検討しますが、カルテ情報は使用しません。		
11. 利益相反に関する状況	利益相反はありません。		
12. 連絡先	大学院医学研究科脳神経病理学講座 教授 若林孝一		
	電話	0172-39-5145	FAX 0172-39-5145